

小林太陽クラブ、西日本大会に出場

7月9日、小林太陽クラブ野球スポーツ少年団の選手ら20人が市長を訪問し、県大会の結果としまなみ学童軟式野球大会への出場を報告しました。高辺稜大キャプテンは「保護者や地域への感謝の気持ちを忘れず、優勝して帰ってきます」と意気込みを語りました。



1年の留学を終え、ゾエさん帰国

7月13日、小林高校での1年間の留学を終えたカエサマン・ゾエさんが、母国スイスに帰国しました。11日は校長室を訪れ、「帰ってからも日本語を勉強し、翻訳家を目指します」とあいさつ。その後、友情を深めたハンドボール部の友人やクラスメイトと別れを惜しみました。



公衆電話会が小学校へ手帳を寄贈

7月16日、公益財団法人日本公衆電話会から市内小学校へ、社会のマナーやルールを学べる「こども手帳」2,800冊が寄贈されました。宮崎分会理事の能勢勝さんは、「子どもたちが自分の身を自分で守れるよう、この手帳を学校や家庭で活用してほしい」と話していました。



三松小ハンド（女子）全国大会に出場

7月16日、三松小ハンドボールスポーツ少年団（女子）が市長を訪問しました。8月1日から8月4日に、京都府で開催される全国大会への3年連続の出場を報告。谷口佳帆主将は「大きな声を出し、チーム一丸となって一生懸命頑張ります」と話していました。



永年の環境保護活動に評価 坂尾文子さんが全国表彰受賞

6月26日、女性を中心に住みよい地域づくりを行っている生活学校の全国大会が開催され、坂尾文子さんが公益財団法人「あしたの日本を創る協会」の功労表彰を受賞しました。坂尾さんは、のじり生活学校で環境保護などに尽力。「みんなの活動でもらえた表彰」と喜びを語りました。



功労表彰を受賞した坂尾さん（写真右）と、表彰を推薦したのじり生活学校運営委員長の山下政子さん（写真左）

第8回世界ユース選手権 小林高校の廣末選手6位入賞

7月14日、ウクライナで開催された、世界ユース選手権3000m競走で小林高校駅伝部の廣末卓選手が6位入賞を果たしました。目標の8位入賞を達成し、廣末選手は「初めての世界大会で不安はあったが、予選で入賞できると感じた。決勝では、満足のいく走りが出た」と話していました。



冬の駅伝に向けて、8月には強化合宿が行われます。「全国制覇に向け、世界大会の経験を生かしたい」と意気込んでいました



同じ地区の「むっちゃんの家（宮窪力男さん）」の生徒たちも合流。白ヶ澤さん宅のきんかんハウスと一緒に作業を体験しました

農家で農と食の大切さ学ぶ 野尻中1年生が農作業を体験

6月24日、野尻中学校の1年生54人が北きりしま田舎物語推進協議会の農家で、農作業体験を行いました。「きんかんやしらがさわあつし（白ヶ澤厚さん）」では、きんかんハウス内の作業や、竹を使ったバウムクーヘン作りを体験。また、収穫した野菜を使った料理に生徒たちは舌鼓を打っていました。



伝達式後は、商店街などでキャンペーンを実施。うちわやティッシュを配り、運動をPRしました

地域のつながりで犯罪を防止 社会を明るくする運動始まる

7月1日、第63回社会を明るくする運動強調月間が全国でスタートし、市役所玄関前で法務大臣メッセージ伝達式が行われました。小林地区保護司会窪田英二会長がメッセージを代読し、市長へ伝達。非行や犯罪防止のために、地域のつながりが重要であることを再確認しました。

農家の暮らしと知恵を学ぶ 三松中1年生が宿泊農業体験

6月19日と20日、三松中学校の1年生59人が1泊2日の農家民泊を行いました。北きりしま田舎物語推進協議会の13農家が迎え入れ。このうち、須木の「夢追い人のくらやみ道場（夏木政和さん）」に宿泊した5人は、麦の刈り取りや、山小屋の窯から炭を出す作業などを体験しました。



刈取機の使い方を教える夏木さんと、体験する生徒ら。川畑隆士くん（写真中）は「たくさん経験ができた」と話していました

地域と保育園の交流を深める こばやし保育まつり

6月30日、文化会館でこばやし保育まつりが開催されました。小林保育会の21保育園の園児や保育園関係者ら330人が参加し、合唱やダンスなどを発表。仮屋俊昭会長は、「この会で地域と保育園の交流が深まり、子育ての輪を広げていきたい」と、話していました。



各園の年長児が合同で合唱。チューリップや金魚のひるね、ぞうさんなどを歌いました